



「砂防事業と地域復興」をテーマに現地検討会が開催されました。

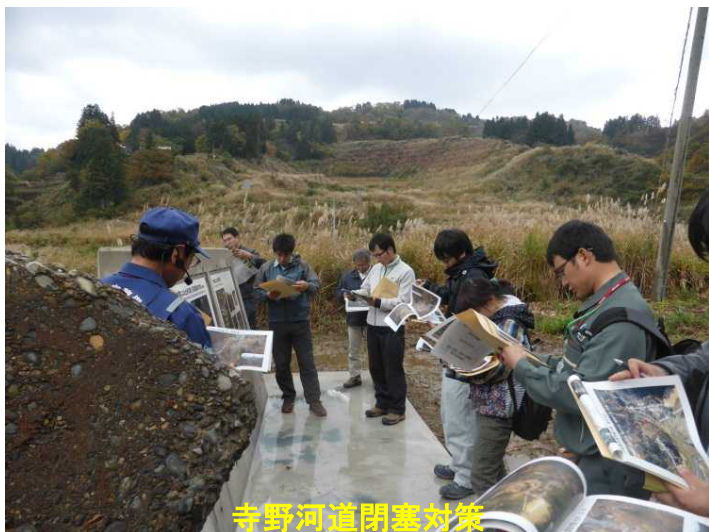
10月28日(火)～29日(水)の2日間、湯沢砂防事務所管内を会場として、(公社)砂防学会主催による現地検討会が、学生の学会員も含め17名を集めて開催されました。

本検討会は、砂防学会員を対象として、「砂防事業と地域復興」をテーマに土砂災害の発生から砂防事業の実施、それに伴う地域復興への取り組みに関する理解を深め今後の砂防計画について議論することを目指して開催されたものです。

1日目は、中越地震により土砂災害が発生した芋川流域を見学し、2日目は、平成23年の新潟・福島豪雨による土石流及び深層崩壊発生箇所等の現地見学を行いました。

1日目 芋川流域

芋川流域で代表的な河道閉塞箇所である、寺野と東竹沢を中心に対策実施現場を見学しました。また、当時の状況でそのまま残っている西願寺川にある河道閉塞については、下流の砂防堰堤工事を行うに際し、安全対策を講じながら実施している旨説明を行いました。また、見学後は、中越地震発生当時の行政担当者を交えて意見交換会を行いました。



寺野河道閉塞対策



当時の状況で残っている西願寺川の河道閉塞



木籠の水没集落



東竹沢河道閉塞対策

2日目 魚野川流域

平成23年7月の新潟福島豪雨により土石流が発生し家屋被害等が生じた土沢（三国川流域）や、大規模な崩壊が発生し今なお不安定な土塊が存在する北ノ入川（高棚川流域）を回り、豪雨による土砂災害の実態を見学しました。また、同じ平成23年の豪雨で土石流が発生したものの、砂防堰堤により土石流を捕捉し下流での被害が生じなかった姥沢川（登川流域）も見学し、土石流に対する砂防堰堤の効果を確認していただきました。最後に、大規模な改築工事が予定されている大源太川第1号砂防堰堤を見学し、老朽化した歴史的砂防施設の状況と、地域の観光資源を守りながら行われる予定の工事計画について説明を行いました。



土沢第1号砂防堰堤



北ノ入川崩壊地



北ノ入川では、学生の皆様に地質調査作業も見学していただきました



大源太川第1号砂防堰堤 記念碑の前で集合写真

平成23年7月新潟福島豪雨における姥沢川第2号砂防堰堤の効果



出水前



土砂・流木捕捉状況
平成23年7月30日撮影